

地震の際の安全確保のための7の手順

準備

1 身の回りを安全にすること
‘89年のローマプリエータ地震および’94年のノースリッジ地震の研究によると、**殆どの怪我**の原因は、揺れの間の落下物または飛翔物であることが判っています。



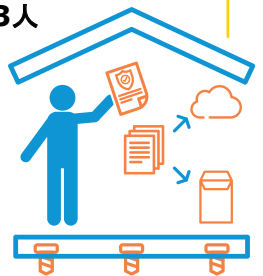
2 安全であるための計画
驚いたことに、カリフォルニア州民の**わずかに40%**が家族とともに緊急計画を策定していたに過ぎませんでした。



3 緊急用物資の整理
カリフォルニアの住宅の**2戸に1戸**は、水、食料、救急箱、懐中電灯、およびラジオなどのキットに必要な不可欠なものを欠いています。



4 経済的な困窮を最小限に抑えるために
カリフォルニア州民の**3人に1人**が自宅の耐震性を強化する方法を承知しているに過ぎず、また地震保険に加入している人はさらに少なくなっています。

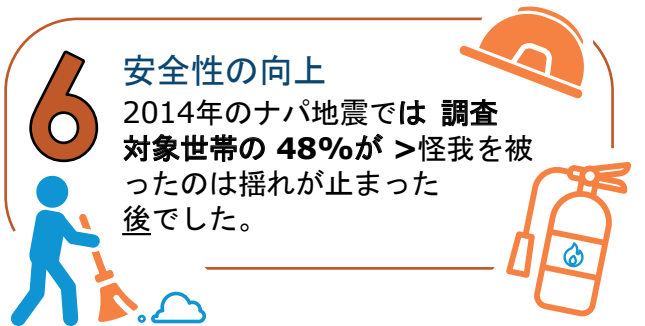


生残り

5 ドロップ/ロック、カバー、およびホールドオン！
‘94ノースリッジ地震の際の**重篤な怪我の55%**は、揺れの最中の転倒、つまずき、およびものを踏みつけたことの全て、またはその何れかが原因でした。



6 安全性の向上
2014年のナパ地震では**調査対象世帯の48%**が**>怪我を被ったのは揺れが止まった後**でした。



復旧

7 つながりの回復及び復旧
2014年のナパ地震後にインタビューを受けた人々の半数以上は愛する人と再会できないことに係る憂慮を経験していました。



EarthquakeCountry.org/sevensteps